http://yahagigawa.jp

豊田市矢作川研究所 月報

◆矢作川学校へのお誘い
◆矢作川学校への手紙
◆第3回 矢作川学校ミニシンポジウムに参加して
◆第3回 矢作川学校ミニシンポジウムを終えて
◆今月の一枚
◆第3回「矢作川 森の健康診断」のお知らせ

豊田市矢作川研究所
〒471-0025
愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F
TEL 0565-34-6860　FAX 0565-34-6028
e-mail yahagi@hm.aitai.ne.jp

2007.04　No.108

矢作川学校へのお誘い

内田朝子

この春休み、たまには家族旅行をしようという話になった。大の猫好きの私は、原生の自然の中で息づいているイリオモテヤマネコの棲む島を願望していた。そんな心の内は伏せ、「すばらしい自然を大切にするには、とにもかくにもその自然にふれることだよ！」と大義名分で二人の子どもをそそのかし、八重山行きを実現させた。西表島周辺の海に入ると、一面の珊瑚礁畑、色とりどりの魚たち、この世のものとは思えないそのすばらしい海中の光景に家族みんなで感動した。悠々と泳ぐ一匹のウミガメにも出会えた。カメに従えば竜宮城へたどり着いたのだろうか。

そんなに遠くに出かけなくとも矢作川にもすばらしい自然はたくさんある。私が一推しのポイントは水生生物の調査にしばしば出かける矢作川上流の根羽川である。水は川底まで澄み切り、その色は八重山の海と同じ碧色を呈している（写真）。川の中を箱めがねでのぞくと、仏頂面をして獲物を待ち受けているカワヨシノボリや石の表面を滑るように走るヒラタカゲロウたちにすぐ出会える。一つ一つの石の表情まで見て取れ、川は「さらさらと流れる」ものだと実感できる。

現在の子ども達は、「自然」、「いきもの」といえば、アニメやゲームのキャラクターを思い浮かべることが多いと思う。矢作川学校は身近にある本物の矢作川の自然、文化に触れ、そのすばらしさを次世代に繋いでいく人々を育みたいとの願いから開校された。矢作川学校を支える講師たちは、矢作川流域に生まれ育ち、半世紀以上も川とつき合ってきた地元の人々をはじめ、矢作川で暮らすアユや水生生物、河畔の昆虫や植物、川辺の人々の暮らしを研究している研究者などである。今号は、より多くの方々に矢作川学校を知っていただきたく、矢作川学校およびミニシンポジウムに参加してくれた生徒さんや学生さんの感想文を掲載した。参考になれば幸いである。

矢作川学校は小中学校の皆さんの自然探検願望が募るように、高校や大学生の皆さんの知的好奇心が高まるよう、仕事に励んでおられる方々の心が川の流れで和むよう、多くのご依頼のお手伝いをしています。

（うちだ　あさこ、
豊田市矢作川研究所内 矢作川学校事務局）

根羽川（川が岐阜県と愛知県の境になっている）
（岐阜県恵那市上矢作町小田子　2003年6月5日 内田臣一氏　撮影）

矢作川学校への手紙

平成19年２月９日、豊田市立美里中学校の39名の生徒さんたちが、総合学習のテーマ『わがふるさと豊田のまちについて知ろう　～私たちの住みよいまちをめざして～』に取り組もうと、矢作川研究所へ訪問学習にやってきました。依頼を受けた矢作川学校では、矢作川研究所の４人の研究員に講師をお願いしました。「矢作川に生息する生物は何種類ぐらいか」、「矢作川の生物の特徴、矢作川の上流と下流で生息する生物や水質に違いがあるのか」、「矢作川をきれいにする微生物はいるのか」、「矢作川と関連する森について」などの生徒たちの質問に対して、研究員らは、植物、魚類、水質など専門の研究を通しわかりやすく説明するとともに、生徒たちと一緒に考えました。後日、訪問学習を終えた生徒から多くの感想を寄せていただきました。ここでは、その一部を紹介します。

今回は、いそがしい中、僕らのために大切な時間をさいて頂いてありがとうございます。今日は、自分の知らないことをたくさん教えてもらいました。土の中には穴がたくさんあることや間伐が人工林には必要なことや矢作川は下流が汚いということなど、色々なことを教えてもらいました。それ以外にも質問などに優しくそしてくわしく教えてくれてありがとうございました。また、矢作川研究所に入れたこともある意味よかった事だと思います。それ以外にも水そうの魚も僕がしらないものばかりでよい経験です。
（豊田市立美里中学校1年1組　林　健太くん）

今日は、私たちが疑問に思っていたこと、不思議に思っていたことなどをわかりやすく、ていねいに教えてくださり、ありがとうございました。
私たちはいま、今日教えてもらったことをもとに新聞をつくっているところです。そのもとになった話の中で一番心に残ったことは矢作川にいるアユの話です。
私は最初、矢作川にアユがいることすら知りませんでした。それにアユはとてもキレイな水にしかいないと思っていました。なので矢作川にアユがいることを知ったとき、とてもうれしい気持ちになりました。でも、その話の中に矢作川は生活排水のせいで汚れたりしているという話もあり、川を汚しているのは私たち人間だということが分かりました。これからも私たちの身近にある矢作川の研究をがんばってください。
（豊田市立美里中学校1年4組　岩月優子さん）

今回は、わざわざおいそがしい中、ていねいな説明をありがとうございました。私はこの総合学習で矢作川についてよく知るということがテーマでした。それは、あまり行くことがなく、現状がよくわからなかったからです。
しかし、今回の訪問学習で、矢作川で増えすぎてしまった外来生物のことや1年しか生きられない鮎のことなど、いろいろな矢作川の現状がよくわかりました。そして、愛知で一番大きいこの川のことを、もっとよく知りたいと思いました。この矢作川が良いままでいられるように、これからは少しずつ環境や地球のことも考えられるようになればいいなと思います。
（豊田市立美里中学校1年5組　村松里菜さん）

＊学年と組は参加当時（平成19年2月9日）のものである

第３回 矢作川学校 ミニシンポジウムに参加して

神谷真吾

私は今回初めて矢作川学校ミニシンポジウムに参加しました。発表者は中学生、高校生、大学生、大学院生と、幅広い年齢層でした。参加者も一般の方々をはじめ、学生、各学校の先生方、いろんな分野の研究者などであり、この矢作川学校ミニシンポジウムが情報交換の場として大きな役割を果たしていることを知りました。

研究発表では、日本初となるコナガカワゲラ属の幼虫を河床下間隙水域で発見した愛知工業大学の学生やニホンイシガメの性決定様式を検証した名古屋大学大学院の学生の発表を含め、すべての発表に関して会場のみなさんがとても興味深そうに聞いているのが印象的でした。特に、私の印象に残ったのは「大洋を越えて…カメが導く外来種問題」と題した発表の中の外来種に関する日本とアメリカを比べた意識調査でした。

その意識調査で、日本でブラックバスが問題になっていることを知っていたアメリカ人が９％という低さには驚かされました。このように研究発表の２時間は驚きの連続で自分にとって環境問題に関しての知識を深めることができた充実した時間となりました。どの発表者も懸命に自分たちが研究してきたことの成果を発表し、それに応えるかのように参加者からもいろいろな質問が飛び交いとても充実した場になっていました。また、発表者同士で高校生は大学生たちがどのような研究テーマを持ち調査を行っているのかを知るいい機会であり、大学生は高校生たちがどのような視点をもって環境問題に取り組んでいるのかがわかる、お互いの情報交換をするのにいい場だと思いました。

私は今春、愛知工業大学大学院に進学し、ホトケドジョウの調査や堰堤に設置する魚道について研究を進めています。よい研究にするには、しっかりとした目的を持ちそれに向かって行動するだけでなく、矢作川学校ミニシンポジウムのような場で自分の研究を発表することも重要だと気づきました。高校生や他の大学の学生の研究に刺激を受け、一般の方の生の意見をいただくことは発表者にとって自分の研究テーマを見直すよい機会になるはずです。

今年度の矢作川学校ミニシンポジウムでは発表者として参加し、いろいろな方と面識を持ち、自分の研究を磨くとともに、環境問題に関しての知識を深めていきたいと思いました。

（かみや　しんご、愛知工業大学 大学院）

第３回 矢作川学校 ミニシンポジウムを終えて

高橋　聡

『矢作川学校ミニシンポジウム』は今回で３年目を迎えました。今年は去年までの高校生・大学生・大学院生に加えて、中学生・高専生の方も発表して下さいました。徐々に参加層がひろがりつつあるのは、事務局としましても大変好ましいことと考えております。また本年は、地元の研究者の方ばかりでなく、アメリカの河川工学の研究者であるディビッド・ウェグナー氏からも発表の講評をいただきました。矢作川の中へ中へと探りを深めていく研究が、広く世界の人びとへも提供され、また世界の人びとから研究の方途についてアドバイスをいただけるようなシンポジウムにしたいと願っておりました事務局としては、上手くいかない部分が多々あったとはいえ、大きな一歩を踏み出せたのではないかと自負しております。

この度の反省点の最たるものは、だんだん演者の幅がひろがってきたことで、質疑応答に充分な時間がとれなかったことでした。コンパクトにするべきところはコンパクトにし、より厚みを持たせるべきところは時間を掛け、アイデアに満ちた会合としていきたいと思います。ご参加いただきました皆さま、ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。ご参加いただけなかった皆さま、次回こそは是非お立ち寄り下さいませ。

（たかはし　さとる、矢作川学校ミニシンポジウム事務局）

表紙の写真
ハンミョウの交尾

春、越冬した成虫はその極彩色の姿を現し、ハイキング道の道しるべであるかの様に前を飛んではとまることを繰り返す。美しい見かけとは裏腹に、鋭い顎を持ち、動く虫などを食べる肉食である。

2005年4月29日豊田市綾渡町　平勝寺
（吉鶴靖則氏　撮影）

子どもアマゴ釣り大会（矢作川学校主催）

日　時：2007年5月12日（土）9:00～12:00
場　所：越戸公園前の矢作川（豊田市平戸橋町）
参加費：100円
連絡先：矢作川学校事務局（0565-34-6860）

第３回「矢作川 森の健康診断」のお知らせ

市民の手で人工林の健全度を調査する「矢作川　森の健康診断」が今年も開催されます。第３回の今年は矢作川源流の大川入山の長野県平谷村、根羽村、岐阜県恵那市、愛知県設楽町、豊田市の３県５市町村で調査を行います。皆さんのご参加をお待ちしています。

＊ハイキングができる体力があり自然が好きな方ならご参加できますが、傾斜が急な場所もあります。

◆日　　時：2007年６月２日（土）9:30集合
◆集 合 場 所：①愛知県豊田市稲武支所
②長野県平谷村役場
◆参　加　費：500円

◆申込み方法：下記の事項を記入し、ハガキ、ｆａｘまたはメールで申し込んで下さい。
(申込み者多数の場合は選考後連絡)
「第３回矢作川森の健康診断 参加希望」
①住所　②氏名　③生年月日　④性別　⑤電話番号　⑥（あれば）メールアドレス　⑦豊田市役所からのバス乗車希望者のみ「バス」と希望明記（バス代別途往復500円）
◆申 込 み 先：〒450-0001
名古屋市中村区那古野1-44-17
嶋田ビル203
矢作川水系森林ボランティア協議会
メール：yamorikyou@yahoo.co.jp
ｆａｘ：052-581-8161
◆募集締切り：2007年5月10日（木）（消印有効）
◆問い合わせ：090-4160-9065（矢森協）または
上記申し込みメールアドレスへ

後記

今年も『川の季節』到来です。前号でもお知らせしましたが、来る5月12日（土）は矢作川「川会議」の日です。「子どもアマゴ釣り大会」も開催されます。多くの「川ガキ」の参加をお待ちしています。（内）

お詫び　前号のRioは、本来、No.106となるところでしたが、No.107としてしまいました。混乱を避けるため、No.106は欠番とさせていただきます。編集の不手際を深くお詫び申し上げます。

R100 再生紙を使用しています